

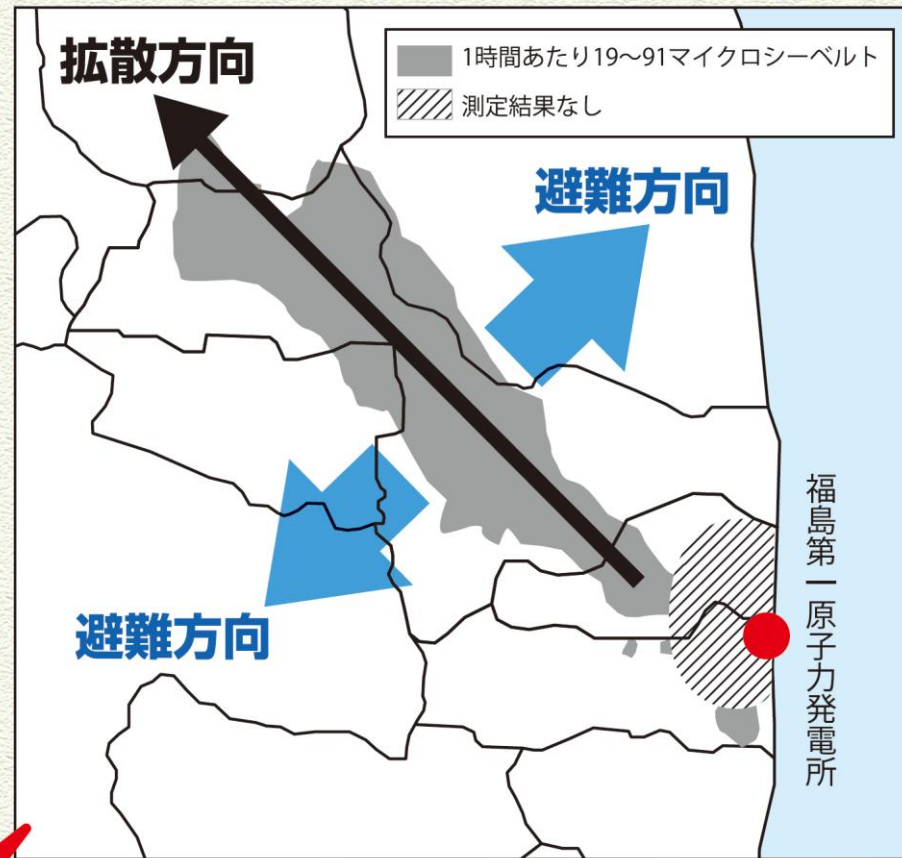
## 風向きなど気象を考慮し、すばやく避難

福島第一原子力発電所事故では、特定の方向に偏って放射性物質が拡散しましたが、情報がなく拡散方向へ避難した方もいました。

長岡市では、この教訓を踏まえ、新潟地方気象台から講師を招いて、風向きを初めとする気象に関する研修会を開催するなど、関係機関との連携に取り組んでいます。

風向きを考慮し、風と直角方向など放射性物質を避ける方向への避難を原則とし、万が一避難する場合の移動距離と時間の短縮を図ります。

直角方向は、すばやく  
避難が可能



『文部科学省及び米国エネルギー省航空機による航空機モニタリングの測定結果について 平成23年5月6日発表資料「文部科学省及び米国DOEによる航空機モニタリングの結果(福島第一原子力発電所から80km圏内の線量測定マップ)」』を基に長岡市が作成。資料に示された地表面から1mの高さの空間線量率[4月29日現在の値に換算]のうち、 $19\mu\text{Sv/hr}$ – $91\mu\text{Sv/hr}$ と、測定結果が得られていない原子力発電所周辺の範囲を抽出し記載。